



いわしま通信

島の細道』紀行文 優秀作品決定！

昨年5月から募集していました『島の細道』紀行文は、12月末で募集を締め切りました。

おかげさまで、かつて祝島の学校に赴任されていた先生や、マラソンで島を訪れたランナー、観光で来られた方など、いろいろな方から応募いただきました。

審査の結果、下記の皆さんが優秀賞および特別賞に選ばれました。応募作品は小冊子『島の細道』として発行する予定ですので、お楽しみに。

< 優秀賞 > (3点)

「笑う島」

広沢洋子 (山口県防府市)

「祝島・・・近くて遠いミステリアスアイランド」

新沼慎二 (山口県光市)

「祝島で思ったこと」

高山秀美 (東京都多摩市)

< 特別賞 > (2点)

「祝島の思い出」

和田益男 (山口県田布施町)

「祝島の紀行文」(思い出)

藤中峰子 (山口県周東町)

尚、審査員は下記のメンバーでした。
審査委員長は木村会長です。

木村力 (会員、祝島)

森久美子 (エッセイスト、札幌市)

高月美和 (祝島中学校教諭、祝島)

江本友之輔 (会員、大垣市)

唐木俊夫 (会員、福山市)

國弘秀人 (会員、祝島)

森久美子さんは食文化に関するエッセイストとしてご活躍中で、昨年秋に祝島を訪れていらっしゃいました。高月美和さんは祝島中学校の国語の先生です。

新春山歩き (行者様 & 祝島最高点)

元日に、新春山歩きを開催しました。今回の山歩きは、朝10時にえびす商店前を出発し、平家塚から行者様、そして祝島の最高点(357m)を目指しました。参加者は7名と少なめでしたが、全員無事に最高点にたどり着きました。

最高点には「二等三角点」と刻まれた石柱が埋められていました。行者様からは歩いて20~30分ですが、道はありませんので、こういう機会がないとなかなか行くことはできないと思います。残念ながら、林の中なので見晴らしは良くありません。記念撮影の後、行者様の下

まで戻り、お弁当を食べてから帰りました。およそ4時間の山歩きでした。



三角点の前で記念撮影

目次

島の細道紀行文	1
新春山歩き	1
< 連載 > 祝島の歴史を探る	2
< 連載 > 魚・さかな・肴	4
文化財の申請について	4
会員リレーコラム	5
< 連載 > 花*花クイズ	5
< 連載 > Let's Learn English in Iwaishima!	6
会員アンケート	7
お知らせ&募集	8

岩たたむ いはひ島なる 岩つて

咲くとき名のれ 山ほととぎす

宗祇法師 室町時代)

<連載> 祝島の歴史を探る(4) ~人間の善と悪~ 蛭子 葉子

前回、太郎万・次郎万と石丸左馬頭が善人か悪人かと問いましたので、ここで人間の善・悪ということについて少し考えてみたいと思います。昨年のNHK大河ドラマは前田利家とその妻の物語「利家とまつ」でしたが、信長・秀吉・家康の3人からもっとも信頼された前田利家も、一方では一揆勢を生け捕りにし磔や釜茹でにするという残忍な一面を持っていました。百万石祭りで賑わう金沢では、「信長によって東海から送りこまれてきた殺戮者を百万石祭りでなぜ祝うのか」という疑問を投げかけた学者もあったと聞きました。戦国時代という特殊な背景があったとはいえ利家にもドラマの中では描かれなかった悪人ともとれる別の顔があったようです。

島のホームページでは原発問題がおきてから善良だったはずの島民の様変わりが書かれていますが、島では村八分どころか自分の親や兄弟の死に目にも会えない、葬式にも出席できない状態が長いこと続きました。しかしそれは原発問題に限ったことではありません。島でも形をかえて昔から陰湿な出来事がたくさんありました。したがって、原発問題で善良な人間が突然悪人になってしまったのではなく、人には誰にでも利家のような危うさがあるということだと思います。精神分析の創始者であるフロイトは「人がまったく善であったり、あるいは悪であったりすることはほとんどない。多くは、ある点では善く、他の点では悪であったり、または、ある外的条件のもとでは善く、他の条件のもとでは決定的に悪いのである」と書き、人間の攻撃性はどんなに平和に育てても残るものだということを認識することが重要なことであると言っています。そしてフロイトのいうように、善・悪という概念は絶対的なものではなく相対的なもの



前田 利家

であり、同じ行為も時と場合によって、また、受けとめる人によって違い、それほど人は単純ではなく、多様で関係は複雑なのだと思います。
(太郎万・次郎万と石丸左馬頭もある時には善く、ある時には悪く、物語も島民

の感情や時代ともに少しずつ変わっていったのでしよう。)

祝島は他の瀬戸内海の島より都市社会の影響を受けているといわれますが、昔ながらのムラ社会の共同体意識は依然として残っています。原発問題ではその共同体意識が悪いほうに露呈し、平均的なものを善しとし自分と違う意見は受け入れない、総意にそぐわない意見は聞かない風潮が蔓延していました。共同体の秩序は、みなが同じような感情と思考の上に立つことが大切であると考えられ、大きく束縛された中で成立しています。その枠からはみ出す者は仲間はずれという制裁を受けるわけですが、その制裁を与えるという考え方は集団教育を受ける学校でもしばしばおこる「いじめ」と似ています。島の人達の暖かい愛情に育まれて平和な子供時代を過ごしたはずの祝島小学校・中学校でもいじめはあり、仲間はずれのようなことは頻繁におこなわれていました。島に来る先生は熱心な教育者であり、私達は個性的で(たぶん)理想的といわれる教育を受けてきましたが、そんな私達にも「いじめる」という陰湿な側面があり、それは大人になった島民の中にも攻撃的な感情として残っていたのです。先ほどの共同体意識というものは評論家から、「自己というものをもたず、生きる世界の狭さからくる視野や考えの狭い意識」と批判されることも多いのですが、一方でその大きく束縛された個々の共同体意識によって共同体の秩序が維持され、ムラ社会は発展してきたのです。島でもこの共同体制により北野やカタイに溜池を作り、水を確保し、田を作り、生活が改善されてきました。秩序を守ることで、歩調を合わせて島全体を同じ高さに押し上げようと、お互いを知り合おうとする気持ちは自由をもてあまして今よりずっと強かったのかもしれない。全国各地を歩いてそのムラ社会を見つめてきた民俗学者の宮本常一氏は、狭い世界でおこる似たような残忍な出来事について「人間が誠実をつくしてきたものは、もし間違いがあっても、憎しみをもって葬り去ってはならない。暖かい否定、すなわち信頼をもって誤れるものを克服してゆくべきではなからうか。私は人間を信じたい。まして野の人を信じたい。日本人を信じたい。個々の日常生活の中にある誤りや愚かさをもって、人々のすべてを憎悪してはならないように思う。たしかに私たちは、その根底においてお互いを信じて生きてきたのである。」と述べています。さきほどの

利家とて同じです。不本意なこともあったでしょうし、裏切ったり裏切られたこともあったでしょうが、妻を信頼し、友人や家臣を信じて、人を許す度量の大きさが利家をあそこまで飛躍させたのではないのでしょうか。祝島でもその歴史や生活を振り返ってみると、陰湿な出来事や人間関係の修復は、その信頼があって少しずつ回復されてきたのだと思います。このように歴史は混沌とした21世紀を生きる私達に、学ぶべき多くのものを示唆してくれます。

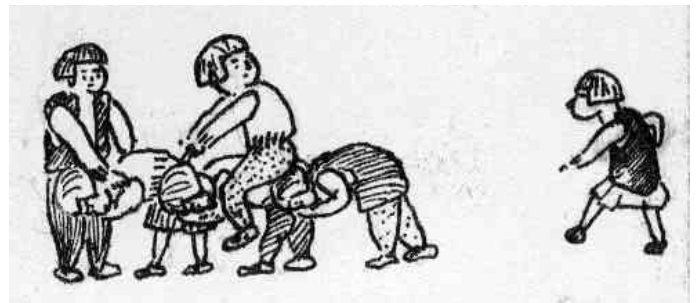
原発問題がおこってから私達家族も多くのものを犠牲にしてきました。そこで失ったものはもう取り戻すことはできません。ましてや取り戻すことが一番困難な信頼関係を失ったことは、回復にまだまだ時間が必要でしょう。國弘君のホームページをきっかけに、このネットを立ち上げてくれたみなさんの努力によって少しずつ回復していくしかありません。

最後に、原発問題が起こる前の善い島に戻せるように願い、祝島のことを書いた本を紹介しておきます。ほんわかした時代の島のことが書かれていて、少し祝島自慢できます。

州之内徹著 「帰りたい風景」「気まぐれ写真館」
新潮文庫

美術評論家の州之内さんのエッセイ集で、画家"松田正平"さんが祝島を描き続ける理由を知りたいが為に島を訪ねた時のエッセイが、"自転車にのって"というタイトルで。

藤原新也著 「末法眼蔵」 朝日新聞社
写真家藤原新也さんのフォトエッセイ集。"インターネット時代に出てきた古い絵葉書に家族の鑑をみる"というタイトルで「おとうさんのはがき」について。



“馬跳び”の絵 「おとうさんのはがき」より

荒子の周辺 (株)田中都市建築事務所資料より

加賀百万石の前田家は知っているも、前田家が尾張・荒子の領主だったことを大河ドラマで初めて知った人も多いのではないのでしょうか。私も周辺にある駅前整備計画の仕事で初めて知りました。現在の荒子周辺は、名古屋市西南部の商業地域としての発展が期待され、総合的な開発が進められています。近くには佐屋街道が通り、前田家ゆかりの荒子観音などの史跡も多く残っています。荒子観音は天台宗のお寺で、有名な円空のナタ削り仏は、今なお観音信仰の象徴として市民に親しまれています。同じ天台宗の比叡山を信長が焼き討ちしたのに絡んで焼失したものを利家が再興したということですので、北陸での一向衆への仕打ちは、利家にとっても不本意なことだったのかもしれない。



荒子観音

<連載> 魚・さかな・肴(4) ~ 鯖(サワラ)~

木村 力

鯖を今まであまり釣ったことはなかったのですが、
昨年夏には何匹か釣れました。

釣り方は、大きな釣り針と靴べらを組み合わせたものを先に付けて、水面下五メートルくらいの所を引っ張るといやり方です。祝島では鯖釣りとは言わず、鯖漕ぎ(サワラこぎ)と言います。釣り上げると1分くらいで死んでしまいます。マグロのように、かなりのスピードで泳いでないと生きていけないようです。



約3キロの鯖

見かけは青魚ですが、身は白身魚に近い色をしています。脂肪分が多いようで、舌触りはトロに近いものがあります。(だから白身魚のように



顔が意外とタチに似ています

透明感はないです。) 刺身でもうまいし、塩を付けて冷凍しておく、結構うまい状態で焼いて食べられます。

学校の給食で時々「鯖の竜田揚げ」が出てきて好きなので作ってみると、これもなかなか良いです。

鯉のたたき風に、たたきにすると、味はいいのですが、冷凍したものはやわらかすぎるようです。

旬は冬から春ということです。



サワラ用釣り針



左がシイラ、右が鯖

文化財の申請について

橋部 好明

祝島の宝というべき、歴史と自然。その自然に対する文化的価値へのアピールが欠けている思いがしていました。そこで、今回祝島の誇るべき自然の中で、次の13点の植物を、上関町の文化財(天然記念物)としての申請を、木村会長、國弘事務局長の協力を得て行ないました。この中には、将来、県あるいは国レベルの評価がされる可能性もあります。結果が楽しみです。

アコウノキ、ウラジロガシ、カンコノキ、バクチノキ、ムクノキ、ケグワ、自生モモ(苦桃)、ムクゲ、ヤマザクラ、カジノキ、オリヅルジダ、コッコウ、蓬の杖。以上13点は、遺したい祝島の植物の一部ですが、とりあえず、上関町教育委員会に申請しました。

これら植物について、次回から紙面を少しいただいて、説明を兼ねて、コラム風書いてみたいと思います。

他にもまだ、申請したい植物がありますが、それらは、次の機会にしたいと思いますので、皆さんでお気づきの点がありましたら、推薦をお願いします。確認して、改めて文化財への追加申請をしたいと思います。

なお、石積の練堀も、町並み保存地域への指定申請をして、後世への文化遺産となるよう、取り組みをしています。この事についても、後日経過を報告いたします。

会員リレーコラム(4) ~ 花田 恵美代さん ~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第4回目は花田恵美代さんの登場です。



新年おめでとうございます。祝島ネット21も3年目。長寿マラソン2回目の去年は、先頭に立って活躍して下さった島の方たちのほか、中学校を出たばかりのお嬢さん方が揃って手伝いに来て下さったり、また応援に来られた方がそのままテント内で手伝って下さったり、あるいはコース上の畑に大きな横断幕を掲げて応援して下さったり。だんだん広がっているようで、感激しました。

マラソンが終わって、翌日だったか翌々日だったか、思い立って山に登りました。島の東側、持平辺りまで行きましたが、道中の景色のすばらしかったこと。お天気に恵まれて佐多岬の方まではっきりと見ることができました。マラソンコースから見る小祝島方面の景色もこの上なくすばらしかったし。いつも、ついつい海で遊んでいて、山にはなかなか行けないでい

たのですが、去年はそのすばらしさを堪能しました。

とは言え、遊びで行くから、そういうお気楽なことが言えるのでしょう。あの険しい山道を、今でこそトラクターで途中まで行けるにしても、毎日仕事に出かけるというのはほんとに大変なことですね。島で生活するということは、自然をそのまま実感しながら生きていくこと、つまり生と死とは隣り合わせだということ、無意識のうちにも感じさせられるものなんだなあと、しみじみ思いました。いつも祝島の人たちの前向きな生き方、強い精神力に頭の下がる思いでしたが、それも納得できるような気がします。

ところで、先日本を読んでいて、「ふるさと孝行」という言葉が目にとまりました。映画監督・大林宣彦の「ぼくの瀬戸内海案内」という本です。「『親孝行』という言葉があるならば、『ふるさと孝行』という言葉があってもいいはず」だと。そして、監督にとっては、ふるさとの尾道で映画をつくるのがふるさと孝行なんだとありました。

さて、何の才能もない自分にも何かできることはあるだろうか、と考えて ありました、応援。というわけで、祝島ネット21という応援団(と勝手に応援団にして)を通じて、少しでもふるさと孝行をしていけたらなと思います。いつも帰ると、心からほうっとして、ゆったりとした気分になれる、そんな祝島がいつまでも元気でいてほしいと願っています。

申し遅れましたが、花田恵美代、昭和22年生まれの団塊世代です。祝島に住んでいたのは3歳ぐらいまで、その後小中学生の間は毎夏のように祖父母の家に滞在して、島の皆さんに大変お世話になりました。これからも、どうぞよろしくお願いします。

< 花田恵美代 >

花*花クイズ(3)

橋部 好明

前回の「花*花クイズ」の答えは、「タンポポの綿帽子」でした。



タンポポの花が終わって、子房が熟すと、萼(がく)が延びて柄となり、その先に冠毛が車状につき、丸く形作ります。そして冠毛が風に乗って、種子を運びます。皆さんも道端にある綿帽子を摘み取り、飛ばして遊んだ思い出が、お有りだと思います。今でも山道端で、綿帽子をよく見かけますが、ほとんどは帰化植物のセイヨウタンポポで、シロバナは見られなくなりました。

さて、今回の問題は右の写真の花です。北野道で偶然見つけました。この花の名前は？ じつは、私にもまだ分かりません…。ハテ、サテ？！



Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (4)

* デニス是我的友達です。

That's right.
You're good fisherman.
Do you live here?

(そうじゃろうが。
あんたあ、えい漁師じゃあ。
ここに住みませえ。)

Anyway I enjoyed fishing very much today.
It was so excited.
You really have a nice fishing ground.

(とにかく釣りをすごく楽しんだよ。本当にいい漁場だね。)

Dennis
(デニス)

Toju-saa
(藤樹さあ)

Dennis caught some big sea breems.
Thanks to Dennis we can have a gorgeous meal !

(デニスがおっけえ鯛を釣ったんだい。
デニスのおかげで豪華な料理が食べられるで！)

Fumi-chan
(フミちゃん)

1 2
3 4

Do you really think so?
Yes ! Iwaishima is full of nature.

(あんたもそう思うで？
はあはい、祝島は自然がいっぱいで。)

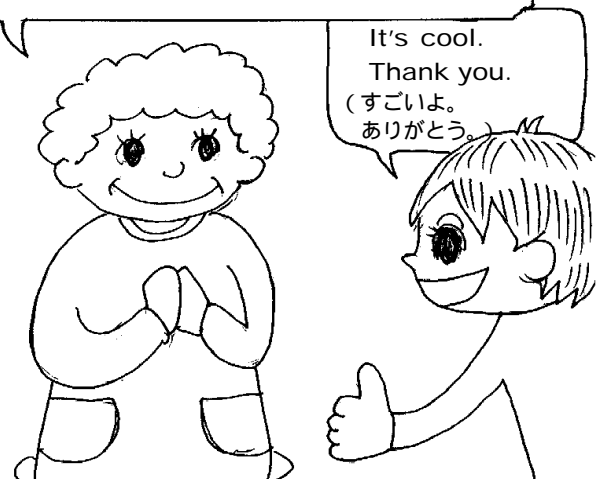
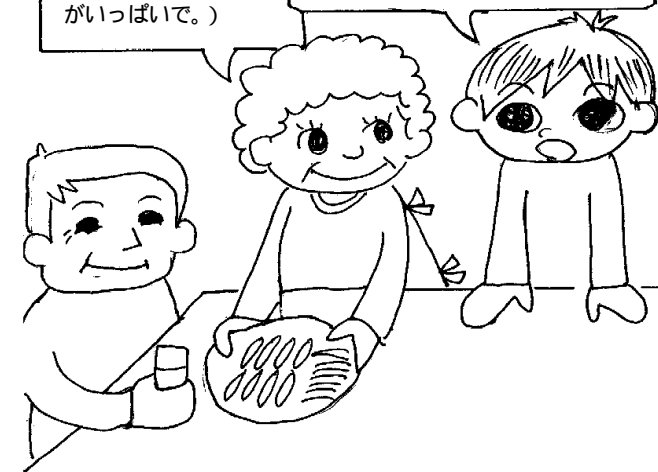
By the way I want to learn Iwaishima.
Iwaishima has wonderful surroundings though it's so small....

(ところで、僕はもっと祝島のことが知りたいです。祝島はこんなに小さいのに、すばらしい環境ですよね。)

Why don't you ask Hashibe-san?
He is the best person to ask about history here.

(橋部さんに聞いたらどうじゃろうか。
この歴史を聞くんなら、あれが一番えいじゃろう。)

It's cool.
Thank you.
(すごいよ。
ありがとう。)



(あらすじ)

はるばる祝島に遊びに来たデニス。山本の藤樹さあに誘われて沖に釣りに出たデニスは、大きな鯛を釣り上げてごきげん。さっそくフミちゃんがさばいて刺身にしてくれました。

デニスは祝島に興味深々。いろいろと知りたいことがあります。

次号では橋部さんが登場するのかな？

会員アンケートのご意見を紹介します

先日おこないました祝島ネット21会員アンケートで、活動内容および運営方法についてのご意見をまとめましたので、紹介します。

< 離島人材育成基金の助成事業に関して >

祝島の休耕地を利用して、みかん作り・米作りを島外の人達に指導し、収穫の喜びを体験する

祝島ならではの「みそ」「うめぼし」作りを島の人達に教えてもらう

山の整備（草刈り、桜の植林等。ボランティアの宿泊・交通費も経費に含めて広く募集しては？）

路地アート展（祝島単独でもいいし、国東半島との縁もできたので、そちらと提携して開催するのもいいかも）

不老長寿マラソンや会報の発行も対象になるのでは？

竹炭作りと、これを使った商品開発はどうでしょうか（竹やぶ問題解消と現金収入と一石二鳥では？）

今年は自治体主催のIT講習会がなさそうなので、パソコン講習会をやってはどうでしょうか

スナメリウォッチング ツアーガイド

ダイビングスポット開拓

「釣り人ホームページ」の作成・運営はどうでしょうか？

廃木、流木、つる、枯葉、紅葉時の葉などを利用した事業と、その人材育成

御老人による講話会、昔話の開催

モノや食べ物など、今は存在しなくなった（または廃れつつあるもの）の復興事業

島内アート展を広く公募して、毎年例会にしているはどうでしょうか（出展場所を求めているアーティストや愛好家は多いと思います）

小中学校山村留学や脱都会派の人達受け入れ

< その他活動内容全般について >

釣りツアー

人家のイラストマップ作り

祝島をPRして、過疎化防止策をみんなで考えたい。例えば、医師の定住・空家の有効利用・職場の誘致・愛好会（盆栽、釣り、写真、陶芸等）の設立など

原発問題での対立の壁を崩せるようなキッカケを作っていければいいと思います

神舞を意識した活動をみんなで考えましょう

芋の煮干（全国各地に干し芋はあるが、祝島のしなびかせて煮て干したものは見たことがないし、あれほど美味しい干し芋もない）やかんころも名物として残せないでしょうか

< 会の運営について >

情報を発信するというオープンな姿勢は最も重要な組織要素だと思います

継続こそが一番の説得力

アンケートや連絡もインターネットを使って通信費

を節約してはどうですか（そのほうが速くて楽だと思います）

祝島ネット21の横の繋がりが欲しいので、会員名簿を作ってもらえませんか

皆さん、アンケートにご協力ありがとうございました。貴重なご意見が今後の活動に活かされるかどうかは、会員の皆さんの積極的な参加にかかっています。アイデアは出ても、実行する人がいなければ“絵に描いた餅”です。今回出てきたアイデアで、自分に出来るものはないか、ぜひ考えてみてください。一人では無理でも何人かでチームを作れば出来るかもしれません。仲間集めなどには、メーリングリストをどんどん利用してください。活動はお盆やお正月に帰省した時を利用していいし、数年間かけてじっくり取り組んでもいいと思います。自分はこのをやりたい！というものがありましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。

活動紹介

2003年祝島カレンダーが出来ました

すでに会員の皆さんには配布しましたが、2003年版の祝島卓上カレンダーが完成しました。今年では会員の橋部好明さんが撮影した、祝島の草花の写真を使わせていただき、「四季を彩る祝島の草花」というテーマで制作しました。

一年間、机の上などに置いて、活用してください！



2003年祝島カレンダー

お知らせ & 募集

家族割引制度ができました

先日行なったアンケートの結果、賛成多数（賛成票が全体の86%）で家族割引制度が承認されました。

同一住所の家族の方が会員になれる場合は、2人目から会費が半額になります。この制度は、2003年分の会費から適用されます。

「島の朝市」に会員の皆さんも積極的に参加しています

昨年11月より毎月1回、祝島漁協横広場で「島の朝市」が開催されるようになりました。毎回、島のおばちゃんたちで賑わっています。やはり食べ物に人気があるようです。特に冬は「焼きまんじゅう」や「たこやき」など、暖かい食べ物には行列ができています。だんだん規模が大きくなって、島外からもお客さんが来られるようになるといいですね。

この朝市に、会員の皆さんも積極的に出品されていますので紹介します。

工藤百合子さん・・・手作りアップルパイなど

木村 力さん・・・自作の陶器など

橋部好明さん・・・みかんなど

皆さんも、手作りの品物や家の押入れで眠っている不用品などがあれば、出品してみたいはいかがでしょうか？



朝市の様子

編集後記

明けましておめでとうございます。祝島ネット21も3年目を迎えました。そして、会報「いわいしま通信」は、やっとこれで1年分（4回）発行しました。毎回、お忙しい中を時間を割いて原稿を書いていただいている皆さんには、本当に感謝しております。これからもよろしくお願ひします。先日の会員アンケートでも、どなたかが書かれていましたが、「継続は力なり」。各コラムも続けていれば、そのうち1冊の本にまとめることができるのではないかと思います。

さて、私事ではありますが、昨年秋に昔のキャンデー屋をリフォームして「蓬菜館」を作りました。一部屋は私の仕事場ですが、もう一部屋はフリースペースになっています。お正月には何名かの会員の皆さんも集まって楽しく宴会をしましたし、子供達を集めて映画上映会もやってみました。他にもあれこれ使い道はあると思いますので、何かアイデアがあれば教えてください。もちろん、祝島ネット21の活動にも、いろいろと使えると思いますので、どうぞご活用ください。次号は4月発行の予定です。お楽しみに。

（編集長：國弘秀人）

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想など、お気軽に投稿してください。

祝島ネット21の活動費は、会員の皆さんの会費でまかなわれています。この会報を会員の募集活動にもぜひお役立てください。

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



冬といえばサヨリの一夜干し